

**C-4 授業記録**

教師	児童
<p>題名をよもう</p> <p>昨日その1をしたね。どんな場所があった？</p> <p>クイズをしたらどんな気持ち？</p> <p>うれしくなったね。また行ってみたい場所ができた人もいっぱいいたね。読んでみるね。</p> <p>(ふりかえりを読む)</p> <p><u>また行ってみたい場所がふえるといいね。</u></p> <p>はじめてもいいですか？</p>	<p>&lt;お気に入りの場所クイズをしよう&gt;</p> <p>校長室・工作室・・・</p> <p>うれしい気持ち</p> <p>ぼくのは？</p> <p>(掲示物や後ろに置いてあるものを見る。)</p> <p>はい！</p>
<div data-bbox="172 600 587 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらいに迫る声かけをし、活動に入るようにした。</p> </div> <p>うさぎ小屋だと思う人？</p> <p>それだけじゃわからない人？</p> <p>どうしてそう思った？</p> <p>やっぱり～と思った人？</p> <p>みんなで言ってごらん。</p> <p><u>そんな風に言われたら悲しくなるよね。</u></p> <p><u>先生泣いちゃいそう。</u></p> <p><u>そうだね。上にあげたら見やすいだね。</u></p> <div data-bbox="172 1608 587 1771" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>困った場面でも、よりよく解決できる方法を具体的に考えられるようにし、みんなで学び合う態度が身に付くようにしたい。</p> </div> <p>えっ！（驚く）</p> <p>ふ～ん。</p> <p>それで好きになったんだね。</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>1つ目【うさぎ小屋グループ】</p> <p>わたしたちのお気に入りの場所はどこでしょう？</p> <p>ひんと1 かわいいです。</p> <div data-bbox="767 824 1018 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>すぐに答えが思いうかび、思いや気づきが広がらない。</p> </div> <p>ひんと2 ふわふわしています。</p> <div data-bbox="767 1025 1018 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>とくに理由が言えない。</p> </div> <div data-bbox="767 1115 1018 1160" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヒントから理由。</p> </div> <p>ひんと3 これを食べるものです。 (にんじんを見せる)</p> <p>(うさぎの写真を取り出すが、もたもたしている。)</p> <p>こっちがライチです。</p> <p>こっちがメイです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うさぎがふわふわしてかわいいから好きです。</li> <li>・うさぎが好きだからです。</li> <li>・私も同じでうさぎが大好きだからです。</li> <li>・昼休みにうさぎ小屋にいったら入らせてもらえます。で、行ったらえさをあげたり4年生がいたり、さわれるから好きです。</li> </ul> <p>2つ目【ランチルームグループ】</p> <p>・・・略・・・</p> </div> <div style="flex: 1; border-left: 1px dashed black; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。うさぎの家です。いいですか？</li> <li>・私も～さんと同じでうさぎ小屋だと思います。</li> <li>・ぼくも～さんと～さんと同じで・・・</li> </ul> <p>ヒントください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチルームだと思います。</li> <li>・<u>ランチルームかなと思います。</u></li> <li>・～さんと同じでうさぎ小屋だと思います。<u>かわいいしふわふわだから。</u></li> <li>・私も～さんと～さんと同じで・・・</li> </ul> <p>あ～！やっぱり～！</p> <p>はいー！（ほぼ全員）</p> <p>うさぎ小屋！</p> <p>見せて！はやく見せて。見えないよ。 (口々に言う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上にあげてください</li> </ul> </div> </div>

<p>気持ちだから難しいかな。  <u>温室</u>がドキドキしたんだね。  まだわからない人？</p> <p>どうして？</p> <p>どうして？</p> <p>3つの中から選んでね。</p> <p>①温室だと思う人  なんでや？</p> <p>②保健室</p> <p>③マルテ</p> <p>じゃあひんと3を聞いたらわかるかもね。</p> <p>まって、まだお話ししたいことあるね。  なんで？  どうして？</p> <p>保健の先生がおいでだからお話聞けるかな。  お願いします。  【保健の先生より】  つけたししてもいいですか？  (ひんと1) ドキドキしたの？だまって入ってくる人がいるので失礼しますと言って入って下さいね。  (ひんと2) どうしてカーテンがあると思う？どうしてだと思う？</p> <p>答えを考えてきました。ベットで休むのは元気な人？  静かに休みたいよね。でも休んでいる人が見られたらはずかしいね。それから安心して休めるようにするからだと思います。  (ひんと3) ピンセットはこのように使います。以上です。</p>	<p>3つ目【保健室グループ】</p> <p>ひんと1 最初はドキドキしました。</p> <p>ひんと2 まわりにカーテンがあります</p> <div data-bbox="625 430 1008 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヒントから自分の経験を想起して答えを話している。</p> </div> <p>ひんと3 (取り出す)  ピンセットがあります。  こうやって使います。</p> <p>正解は、保健室です。  〇〇先生がやさしかったです。</p> <p>4つ目【3の1、3の2グループ】  ・・・略・・・</p>	<p>わからん。気持ちだからわからん。  ・温室だと思います。  ・保健室だと思います。(何人か続く)  (10人ほど手を挙げる)</p> <p>・私も保健室だと思います。  <u>だってカーテンがある</u></p> <p>・マルテルームだと思います。  <u>カーテンがある</u></p> <p>0人  <u>カーテンないから</u></p> <p>多数  7人  やっぱり保健室。メス？メスやよ。  はい！  ・保健室だと思います。  ピンセットは消毒する時に使います。  ・保健室だと思います。  <u>だって前それで消毒されたからです。</u>  <u>やっぱり～！</u></p> <div data-bbox="1050 1070 1436 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の体験から答えを出している。</p> </div> <p>・隣の人に見られないようにするため  ・なんでカーテンはかくれるのですか？  ・見られるとはずかしいから  ・前とか横から気持ち悪いところを見せたくない。最初はやる気まんまんだけど見ると無理になっておもうから。</p> <p>ううん(首をふる)</p> <p>拍手</p>
---	--	---

今日のクイズは4つあったね。 1つ目は・・・ 2つ目は・・・ 3つ目は・・・ 4つ目は・・・ お友だちのクイズを聞いて「行ってみたいな 〜。」て思った場所できたかな？ 今日のふりかえりを書いてね。	うさぎ小屋 ランチルーム 保健室 3年1組2組  (ふりかえりを書く)
---	--

ヒント1は気持ちを伝えるのだが、気持ちを聞いてもすぐ答えがわからない。だから同じ気持ちになるところを自分の体験から予想する子が出てきた。ドキドキする場所というヒントから温室だと思ったのは、その児童が温室に行った時ドキドキしたからであろう。「温室がドキドキしたんだね。」と認めていくことで、他の児童にも自分なりにドキドキした場所を想起させたいと思った。しかし、秘密の探検やクイズ作りではあるが厳密に秘密にならないこともあり、答えがすぐに出されてしまうことが多かった。それでも、カーテンがあるというヒントに、カーテンのあった場所を思い起こしている。ヒント3で実物を見ることで「やっぱり」という声が強まっていった。ピンセットと綿を見て、自分がそれで消毒してもらった体験をもとに、やっぱりと確信している。このように、少しずつヒントが簡単になっていくようにすることで、友だちのお気に入りの場所を自分の体験を思い起こしながら予想する楽しさを感じることができた。さらに、予想した答えに「どうして？」と投げかけていくことにより、考えたわけがはっきりしていった。このようなヒントの出し方は、自分の体験とつなげながら答えを考えようとすることができ、自分自身への気づきにつながっていくきっかけになることがわかった。ヒントが進むにつれ、選択問題にしたり全員で答えを言ったりして答え方を変えていくことも、みんなが参加できる効果的な支援であった。子どもの様子を観察しながらタイミング良く活動に変化を与えていくことが、低学年ではとても大切だと感じた。みんなが「やっぱり」という気持ちになって答えることができ、楽しくクイズに参加することができた。

もっと聞き手側にまわって、思いがもてない子への支援をしたかったが、発表者側の支援にまわるが多くなってしまった。声の大きさや物の見せ方などは、今後も発表体験を重ねながら身につくようにしていきたい。発表者にとって、聞き手の反応は自分自身への気づきを生むことにつながる。また聞き手にとっても、友だちの発表を聞くことは、新たな気づきを生むことにつながる。どの児童にとっても友だちとのかかわり合いが効果的なものになるよう、発表者側への支援、聞き手側への支援、そして個に応じた支援について考えていきたい。